

令和3年度 第1回調布市文化財保護審議会会議録

【日時】 令和3年6月14日(月) 午後2時から

【場所】 調布市教育会館 301研修室

【事務局】

定刻にまだ時間がありますが、先生方皆さんがお揃いのため、令和3年度第1回調布市文化財保護審査会を開催します。4月1日で新たな任期となっておりますので、会長・副会長が選出されるまでの間、議事の進行は事務局で行います。

なお、本日の会議ですが、緊急事態宣言下という状況のため、1時間半以内、午後3時30分終了を目途に進めたいと思います。御協力のほどお願いいたします。

はじめに「調布市文化財保護条例」第45条の規定に基づき、会議の成立を確認いたします。本日、委員定数7人のうち、出席委員6人、欠席委員1人ということで、委員の過半数が出席していますので、この会議は成立いたします。

1 館長挨拶

【館長】

本日はお忙しい中、令和3年度第1回文化財保護審査会に御出席いただき、ありがとうございます。多岐にわたる議題に対し、色々な角度からのご意見やご助言を賜りながら、会議を進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、昨年と同じことをお話しましたが、新型コロナウイルス感染も収まらないなかで、本会議も感染拡大防止のため会議の時間や方法等の制約を設けながらの開催となることをご了承願います。また、昨年度は、入間町城山遺跡の出土遺物の文化財指定をはじめ、多くの案件を進めていただきましたこと、誠にありがとうございます。

今年度から新たな任期となりますが、委員の皆様には引き続きよろしくお願い致します。

2 郷土博物館職員異動について

【事務局】

次に、4月に人事異動がありましたので説明いたします。

(事務局より職員異動について説明)

3 審議会委員の委嘱について

【事務局】

次に審議会委員の委嘱についてです。

(館長より各委員に委嘱状を交付)

4 審議会会長・副会長の選任

【事務局】

それでは次に、会長・副会長の選任です。「調布市文化財保護条例」第 43 条第 2 項に「会長及び副会長は、委員が互選する」とあります。選出をお願いします。
(委員による互選の結果、稲葉会長が再任され、副会長には新たに石川委員が選出される)

【稲葉会長】

受けさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【石川副会長】

まだまだ分からないことばかりですが、勉強しながら進めたいと思います。
よろしくお願いします。

【事務局】

新しく委員に就任されました岩澤先生に御挨拶をお願いいたします。

【岩澤委員】

今年から選任されました岩澤と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、ここからは稲葉会長に会議の進行をお願いします。

【稲葉会長】

それでは、事務局をお願いします。傍聴の方がおりましたら入室をお願いします。

【事務局】

本日、傍聴者はありません。

【稲葉会長】

それでは、事務局報告に入ります。

事務局から一括報告の後、皆さんから質問、意見を受けたいと思います。では、事務局
お願いします。

5 事務局報告

(1) 「入間町城山遺跡第55地点1号・2号・4号竪穴住居跡出土遺物」の市文化財指定について

【事務局】

それでは、「入間町城山遺跡第 55 地点 1 号・2 号・4 号竪穴住居跡出土遺物」の市文化財指定についてです。これまで、本会議でご審議いただいた「入間町城山遺跡第 55 地点 1 号・2 号・4 号竪穴住居跡出土遺物」は、令和 3 年 3 月 31 日付けで市指定有形文化財（考古資料）に指定されました。

本件は、指定に向けての審議を始めてから 3 年ほどかかりましたが、無事指定することが出来ました。御審議いただきありがとうございました。以上です。

(2) 市内発掘調査について

【事務局】

次は、「市内発掘調査について」です。

資料3を御覧ください。まず、国領南遺跡第177地点ですが、品川道沿いの敷地で、店舗建設に伴い、本調査を行いました。

古墳の周溝2基のほか「L字状土坑」と呼ばれる土坑が多数、中世以降の道路状遺構が見つかっています。また、南側の古墳周溝に接する土坑から、ほぼ完形の須恵器高坏が出土し、北側の古墳周溝から土師器が出土しました。このほか、礫を敷きしめた土坑1基が確認されましたが、遺物がほとんどないため時期は断定できませんでした。形状などから埋葬施設と考えられます。

次に、下布田遺跡185地点です。本地点は下布田遺跡の史跡範囲から50メートルほど東に位置します。保育所の建設に伴い、試掘調査を行い、土坑1基と溝跡のような遺構を確認しました。土坑は、本地点のすぐ南側にあたる地点で中世の火葬土壇墓が検出され、今回確認された土坑も同様の遺構である可能性が考えられ、現在、本調査を行っています。

次に、染地遺跡第175地点です。分譲住宅の調査を行いました。本敷地では、宅地造成の際に道路部分を第161地点として調査し、古墳時代以降の竪穴住居跡や溝跡などを検出しています。第175地点でも同様に古墳時代以降の竪穴住居跡が見つかり、第161地点からの延長とみられる溝跡も検出されています。

「市内発掘調査について」は以上になります。

(3) 市指定有形文化財「虎狛神社之碑」の説明板設置について

【事務局】

続きまして、「市指定有形文化財『虎狛神社之碑』の説明板設置について」です。

昨年度の審議会で、説明板の文案について確認いただきましたが、昨年度末、虎狛神社境内に設置いたしました。これで虎狛神社の説明板は、本殿と石鳥居に続き、3本目です。

(4) 国史跡下布田遺跡史跡整備事業について

【事務局】

次に「国史跡下布田遺跡史跡整備事業について」です。

平成31年度、令和元年度、令和2年度にかけ、下布田遺跡整備基本計画策定を木下先生と石川先生に委員として加わっていただき、3月に策定することができました。

概要版のパンフレットも作成いたしました。

整備の基本方針は、整備テーマ「みんなで育む・感じる・発見する縄文のふるさと」というテーマを確立しました。

意図は、「みんなで」は、市民と協働事業として行う整備事業。「育む」は、貴重な遺跡

を後世に伝えて保存していく。「感じる」は、縄文人の暮らしを思いはせる空間、歴史学習の場を作る。「発見する」は、創意工夫による活動や調布の魅力発信という交流を深める場としての多様な学びの場。をあげ、最後に縄文のふるさととして、ふる里のように憩いの場となるように思いをこめました。

また、基本方針は、史跡の確実な保存、縄文時代の生活技術と精神世界を表現するとし、貴重な布田崖線が残る地域であるため、自然環境を活かした憩いの空間をあげております。

来園者の利便性向上と体験型活動の充実、最後に市民参加による管理運営体制づくりは、行政主導でなく、市民と共に一緒に作り上げてる遺跡公園とうたっています。

史跡整備は、短期整備、中期整備とあり、短期整備の段階では、史跡の中央に生産緑地があります。一括一面的に整備できないため、暫定的に布田崖線のうへの部分は、交流広場ゾーンと遺跡体験ゾーンとわけております。

布田崖線については、自然ふれあいゾーンとし、現在の崖線の地形と自然を生かしつつ
囿るゾーンとしたいと考えております。また、ガイダンスゾーンは、史跡範囲内で、現在の博物館分館部分にあたる部分を史跡のガイダンスゾーンとして整備していく予定です。

今後の計画についてスケジュールは、昨年度、この整備基本計画を策定し、計画段階は終了となります。

今年度は、設計に先立ちます測量をおこないます。また、コロナの状況をみながら、市民の方とワークショップを開催します。そのほか学校連携などを進めていく予定です。

来年度は、基本設計を行い、令和 5、6 年度に公園部分の実設計と工事を行い、令和 7 年度に公園部分の公開となります。令和 7、8 年度にガイダンスゾーンの工事を行いまして、令和 9 年度に全面的な開園を目指しております。以上です。

(5) 深大寺近代文書等史料調査について

【事務局】

「深大寺近代文書等史料調査」から説明します。

これは、令和元年度から 3 か年事業で国庫金補助金事業として調査を進めて参りました。

深大寺近代文書等史料調査です。古文書班は、現在、調査をしているところです。

今年度は、目録刊行の年目録最終年度になりました。包春関係資料ができました。

カラー口絵、あいさつ文、例言、目次、凡例、調査概要、解説調査目録が、1～4 まであり、1 番が立体物です。包春が実際につくったもの、模造、包春の品々が来ます。

平面作品で正倉院の模造したものが沢山あり、同じく包春が実際につくったもの。模造、包春の品々がつづきます。3 番は書簡です。包春がいろいろな方とやり取りした書簡があります。4 番として、新聞やスケッチや写真など色々なものをまとめたものです。

目録の記載は、名称、員数、分量、材質、形状、時代、保存状態、銘文、備考と考えています。図版は、最後に来ます。これらすべての資料を掲載したいと考えており、現在すでに調書等を終了し、調書自体の修正等を行っているところです。

裏面は、古文書の目録案になります。カラー口絵、例言、目次、凡例、調査概要、解説です。

目録の1番は、新発見文書と言われ今回調査にあたり新しくした調査したものです。2番は、大般若経で深大寺の般若経で約600です。3番は、木等器物でおみくじなどの版木とその他の版木物類でございます。4番は、総務課寄託文と呼んでいるもので、平成27年度までにそれらを総務課に引き継いでいます。最後に代表的なものとして図版として載せたいと考えております。

調書自体は4月に終わり、5月に写真等の撮影も全て終了しております。

現在、調書のデータの修正を行っています。包春の下絵で大型のものは、自前で撮れないため、写真撮影委託を行いました。

現在、こうした流れで行われています。6月30日に文科省と先生方と深大寺を交えまして、目録の会議を行いまして、最終的に目録案を固めて目録の作成、目録の刊行に向けてすすめて参りたいと思います。以上です。

事務局報告は以上となります。

【稲葉会長】

どうもありがとうございました。以上事務局から報告がありました。御質問、御意見ございますか。資料3に出てくる古墳が、今後はどうなりますか。

【事務局】

調査が終り、工事がはじまっています。こちらは、店舗が作られる予定です。開発事業に伴う発掘調査は、記録保存という考え方で調査が終わり次第、工事が進められます。よほど貴重なものが出ない限り、保存という話にはならないのが現状です。

【稲葉会長】

古墳は残っていたのですか。

【事務局】

見つかったのは周りの溝の部分だけで、墳丘はすでに削られ残っていませんでした。今回見つかった古墳2基は、遺跡名としては国領南古墳群ですが、すぐに西側に下布田古墳群が分布していて、古墳群としては下布田古墳群に含まれるものと思われます。

これまでの調査で下布田古墳群は20基見つっていますが、それと同じ括りです。

国領南遺跡と下布田遺跡の境は、道路を境に西側が下布田遺跡、東側が国領南遺跡と分けられています。遺跡名はあくまでも便宜的な区分になりますので、古墳群として見ると下布田古墳群の分布の範囲になると思われます。

【稲葉会長】

礫の出たところは、遺体を埋葬したところですか。外側から出ているのですか。

【事務局】

礫を伴う土坑は、古墳の周溝の外側で見ついています。古墳からは埋葬施設は見つかっていません。当然古墳には埋葬施設があったはずですが、後世の耕作などで墳丘が削り

飛ばされた結果、墳丘内にあった埋葬施設も壊されてしまったと思われます。礫を伴う土坑は、古墳とは別の埋葬施設です。

【稲葉会長】

これは追葬のようなものですか。

【事務局】

遺物は、鉄滓が 1 点出ただけで土器を伴っていないため、正確な時期というものが難しいのです。今、自然科学分析をかけているところで、その結果で時期が明らかになるかもしれません。ただ、礫の配置状況などから、隣接する古墳とほぼ同じ時期と考えられます。

【木下委員】

今回見つけた古墳は、下布田古墳群の古墳と特徴が似ていますね。一連の古墳群と考えて問題ないでしょう。下布田古墳群の中でもやや古め、5 世紀代に位置づけられるのではないかと思います。

【稲葉会長】

では、深大寺近代文書については吉田包春の書簡とありましたが、どのくらいありましたか。

【事務局】

200 くらいです。書簡だけではなく、書簡とその他のスケッチ等を合わせて 200 くらいです。

【稲葉会長】

吉田包春は、付き合いが幅広いので、関係人物を整理して、相関図を作っておいた方がいいと思う。作品を売った台帳とかもあります。誰にどの作品を売ったか書かれたメモのようなものも遺族の方が元気なうちに聞いたほうが良いです。

【事務局】

今年度、目録を刊行する予定で、吉田家とは連絡を取って話を聞きたいと思います。

【木下委員】

目録を今年度に完成させるとすると作業の方はかなり大変ですね。奈良女子大とは、何か連絡は取っていますか。奈良女子大は、包春の作品をコレクションしており、研究も行っているため、お互いに情報交換できるといいですね。一度、奈良女子大に行かれるといいです。包春作品のため特別に保管庫を作り、非常に丁寧に保管しています。

【稲葉会長】

深大寺の近代文書調査について、生駒先生から補足はありますか。

【生駒委員】

天台宗でいうと寛永寺があり、浅草寺があり、深大寺という序列となります。

幕末の明治維新の際の上野戦争でほぼ焼失してしまい、浅草寺に勢力が移ります。寛永寺は、本体が焼けてしい一時期、不忍池の弁財天が寛永寺の拠点になったということが、深大寺の近代文書から分かります。東京は第 9 教区、第 10 教区、第 11 教区というよう

に分かれ、それぞれ代表が深大寺と浅草寺、そして寛永寺が焼けたため、弁財天となりませんが、明治に入ると浅草寺と深大寺の地位がぐんと上がっていることが資料から分かります。

深大寺は第9教区の代表ですが、明治に入り勢力が広がり、神奈川県鎌倉まで深大寺が仕切るようになります。鎌倉は、天台宗のお寺が沢山あり、由緒あるお寺も多いのですが、深大寺は末寺の数が多いため、教区の代表を選ぶ選挙をすると本末関係で深大寺が選ばれることとなります。つまり、江戸時代の末寺の多さが、近代になり、深大寺が一気に勢力を拡大する要因となっており、寛永寺が廃れていったことで、深大寺の影響力が明治に入ってから非常に大きくなったことが資料から分かります。

江戸時代は天台宗のトップは東叡山寛永寺です。比叡山延暦寺もありますが、末寺の数で寛永寺が延暦寺を圧倒していたのですが、明治になると寛永寺が廃れて、延暦寺がトップに戻ります。その際、延暦寺と関東の窓口になったのが深大寺になります。そのため、明治になって延暦寺がどのようにお金を集め復興していくのかというのが、深大寺の近代文書を見るとよく分かります。

こうしたことが、今回の近代文書調査の成果として挙げられます。

深大寺を中心とした調布の信仰ですとか、調布だけでなく世田谷。ですから、深大寺を中心にした調布の信仰がよくわかるという点もあります。調布だけではなく、その他の世田谷まで含んだ檀家のありようもわかります。また、府中と調布、昔は、府中町深大寺、府中市深大寺などの府中という言葉が含まれ、深大寺が出てきます。ただ府中の檀家と調布市の檀家が違い、府中は、六勝権現、大國魂神社を檀家にする府中が多いのですが、この檀家の違いが、府中と調布の境になっていることがわかります。

また、東京を中心とした天台宗をどのようにまとめていったかということと比叡山延暦寺です。あと神仏習合の廃仏毀釈ってということも深大寺は、他の寺院に比べて多大な意味被害、被害というわけではないのですが、神仏分離が、激しかったというふうにいわれていますが、文書を見る限りでは、特に深大寺が、例えば明治政府のターゲットになり、神仏分離を積極的にやられたわけではなく、結局、深大寺が祈祷寺であるというかです。元三大師が今でもあり、一生懸命やっていますが、何とか、祈願寺っていう性格で、いわゆる葬式仏教ではなく、檀家がないということです。要は、上知令や浄智例では、実際に宗教的なことに使うものに関しては取られませが、墓地がなかったことで、他の神社などは、墓域として確保して出来たところが、深大寺では、おそらく確保でき無かったと思います。

そういう意味で、神代植物園が深大寺の境内だったわけですが、深大寺が祈祷寺ではなく、葬式仏教の寺があったら、多分おそらく、寺の構造上、本堂の裏ということで墓地であり、公園にはならなかったなどが、近代文書の中からわかるという話です。

現代の調布市の特徴的な植物園の成り立ちが、実は、この深大寺の近代文書を見ているとよく分かります。

深大寺の側の深大寺小学校に寄進する様子などが資料に出てくるので、おもしろいです。

【稲葉会長】

いろいろ解明されなければ、面白くなってきましたね。大事な歴史ですよ。ありがとうございます。だいぶ調査もすすんでいます。

【生駒委員】

調布の遺跡群ですが、深大寺の末寺が合致するという。つまり、遺跡が出る場所と末寺があるところが一緒です。

下布田遺跡がある場所に深大寺の末寺があるのだなあと、生活の根幹は動かいなと改めて今日、遺跡の話を聞きながら思いました。

【岩澤委員】

江戸時代に深大寺が末寺を作っているんですね。

【稲葉会長】

どうもありがとうございます。

寛永寺は、資料がないです。台東区をやっていますが歴史がわからないので、今の話を寛永寺の住職に話したら涙流して喜ぶ。ありがとうございます。

下布田遺跡について、図面をみますと北側にある狐塚古墳と繋がりがいいではないですか。

【木下委員】

入口が近くにあり、ここに一つ一つ導入図と書いてあるのは、北側の道から入れます。

【稲葉会長】

わかりました。では、報告事項はいいですか。

次は、審議案件に参ります。

6 審議案件

(1) 文化財指定候補と年間スケジュールについて

【稲葉会長】

それでは、御説明ください。

【事務局】

資料7をご覧ください。昨年からの引き続き、6点、新しく2点4番と5番です。4番は、現在、発掘調査は終了しています。多摩川住宅の建て替えに伴い、埋蔵文化財センターから伺った発掘調査です。都内で3例目の、小銅鐸、都内2列目の藍胎漆器で、調査の際に、貴重なものとなりました。では、今年度の文化財指定候補を2点選んでください。お願いします。

【稲葉会長】

ありがとうございました。この中から、2点お選びください。緊急性があるものは何かありますか。

【事務局】

緊急性のものはないです。

【木下委員】

小銅鐸は、都が保管しているのですか。小銅鐸は、今年度作業を進める。籃胎漆器は、どのくらい残っていますか。

【事務局】

いま、埋蔵文化財センターが保存しております。かこの部分のその反対側が残っています。

【木下委員】

底の部分や半分くらいはありますか。そこはどの様な感じですか。

【事務局】

一応あります。エックス線でも透過してみたのですが、具体的な編み目などは、わからないです。

【木下委員】

普通小さくて、四角くて、多口がついている場合が、籃胎漆器はあります。東北地方で発見されているものなどは、残り具合でさほどよく分かりましたので、今後保存措置をやっていくとすれば、予算をつける理由はあるのかと思う。下布田遺跡の出土品とまとめて指定したほうがいいです。

【稲葉会長】

籃胎漆器でたのは初めてですか

【事務局】

そうです。都内でも杉並区の遺跡で発見された 2 例目です。全国的にも 28 遺跡からのみです。

【木下委員】

たまたま、いい状態で残ったということです。漆がつい状態のところで見かりました。

【稲葉会長】

やはり指定しておいた方が遺跡の幅がひろがるのではないですか。漆を縄文人が栽培していたのですよね。

【事務局】

花粉分析をしていただいておりますが、やはり漆の花粉がでてきたということで、ある程度の漆畑はあったのではないかと分かってきました。

【稲葉会長】

それは、重要です。先に指定しませんか。ある程度注目度がでますね。

【木下委員】

ある程度、作った過程が分かれば、作った内容の多くの公開資料があれば、全体的に評価できるようなものがあればいいと思います。現時点では難しく、今分析した結果もよく分からないということです。

【事務局】

東京大学で、花粉分析と漆器の年代分析を行ってもらっています。その結果が、7月末日以降にでるとおもわれますので、審議会でもご報告させていただきます。その際に、籃胎漆器の価値についてもご検討頂きたいと思います。

【稲葉会長】

1番の太子堂の板ですが、元三大師のものと天井画の方向性を見出した方がいいのではないですか。現在、作業をしているわけですが、今後進めていくということでいかがですか。お焚き上げをすればするほど真っ黒になるので、その煙などをどのように逃がすかを若住職も考えていますが、なかなか踏み切れずにいます。元三大師が指定にもなり、火でも着いたら大変なことになります。

【事務局】

去年、防犯カメラを東京都の補助金でつけたりしました。一応、最低限の応急処置で自火報設備もつけ、お寺の方々がいるところまで届く装置を設置しました。スプリンクラーはついていません。

【稲葉会長】

ここまで、揃っていることはありませんが、深大寺の寄進状はどうですか。

【生駒委員】

いいと思います。問題ないです。

【木下委員】

そうですね。近世の江戸時代までまたがって揃っていることはありません。深大寺の役割が分かるのでとても良いです。

【事務局】

深大寺に報告等を次回までにいただきます。

【稲葉会長】

本来ならば、写して將軍家に返却するものが、残っています。ここまで、残っているところは無いと思います。

【木下委員】

なぜ残っているのですか。

【生駒委員】

恐らく、代が変わるたびにお寺から申請をするのですが、代が変わった際にお寺から返却忘れだったと恐らく思います。

【稲葉会長】

野口家の件はそのどうですか。

【事務局】

八木橋先生が現在、忙しく、学生を連れて野口家に行く予定ですが、コロナで今は、行かない。また、近世の調査が必要となるため、協議をしなくてはいけない。また、新規の

ものを指定してもらうことになるので、調査に時間がかかります。

【稲葉会長】

それでは、今年度は徳川将軍寄進状にしましょう。

【生駒委員】

わかりました。それでは、この表でいいますと3番と7番と8番ですね。(3番徳川将軍寄進状、7黄檗版大般若経、8番元三大師御○神版木着

【木下委員】

報告書が出てきましたら、すぐに指定をしたいと思います。

【稲葉会長】

そうですね。では、文化財指定候補は、「徳川将軍寄進状」とします。

(2) 文化財説明板の文案について

事務局がシロハナヤブツバキについて説明。

7 その他

(1) 次回開催日について

令和3年9月9日(木)に開催いたします。

なお、コロナウイルス感染症拡大状況により、変更することもあります。

以上をもちまして、第1回調布市文化財保護審議会を終わります。